



1

ドイツ ハノーファー渡航



ハーメルンで

AC報告 (8月29～9月4日)

AC: 山崎恵美子

参加者19人はハノーファーでの再会を楽しむことができました。空港に出迎えてくれたメンバーにお会いした時には照れと懐かしさで感無量でした。滞在日数が少ない！もう少し長くいてほしいと言われた時には嬉しくなりました。盛りだくさんの緻密なスケジュール、愛情に満ちたおもてなしで、あっという間に時は過ぎていきました。ハノーファーの歴史を英語ガイド付きで紹介、美しい庭園を会員の方が説明、また日帰りバス旅行など思い出深い渡航となりました。

会長兼ACを長年務めたガーハードさんは引退を考えているそうです。会員の高齢化でホスト先が減り、私たちの受け入れを最後に活動休止すると聞き、残念です。今回の受け入れは私たちのおもてなしへの恩返しだったようです。嬉しいような、悲しいような、でも世界中のクラブで同じ問題を抱えていると実感しました。

8/29 “ようこそ”の空港出迎えに感激

工藤 澄子

8月29日夕刻、ハノーファー空港でマッチングし、ホスト宅へ。すぐゲストルームに案内されました。家を出る時スーツケースの鍵を壊し、紐を巻いて来たので無事確かめ、ホッとしました。

急いで食堂で合流。蝋燭とワインが並ぶ初めての夕食、アートのような料理、夫は買いすぎるとイボンヌが優しく微笑む…。

時は流れて家の中を案内していただきました。地下はゴミステーション、大冷蔵庫に野菜も。台所の小冷蔵庫は、単身者サイズ。本はどれでも読んでと言われて、遅くまで楽しみました。



空港での出迎え

8/30 ハードスケジュールのハノーファー見学

市川 良美

日本の蒸し暑さから一転、涼しさを通り越して寒いくらいの気候。ウールのマフラーを買うはめになりました。まずシティホールで立体模型を見ながらハノーファーの町や歴史を知ること。ハノーファーはドイツの単なる田舎町と思いきや、日本と多くの共通点を持ち、世界に先駆けて文化を発信してきた素晴らしい街だと知りました。

ランチを終えてヘレンハウゼンロイヤルガーデンへ。かつて王家や貴族たちがここで優雅な毎日を送っただろうと想像しながら、広大なスペースに整備された幾何学模様の庭園を散策。歩き過ぎて我が体力が尽き果てて来た頃になっても、昼が長いここではまだ日射しが高く、さらに観光は続きます。

クラインガルテンと呼ばれるのどかな農園の一角で「ウェルカムティー」タイム。お茶と手作りケーキに舌鼓を打ちました。外から流れてくるオルゴールのメロディに誘われて出て行くと、なんと手回しのオルゴール。自ずと身体が反応し踊り出しました。初めて踏んだ欧州の地は思った以上に重厚で歴史を感じさせるすばらしい街でした。



模型を使った市街地の説明

8/31 ツイレ (Celle) 市街

今村 佐知子

ハノーファーから北東へ車で40分、ドイツの真珠と呼ばれている町・ツイレに行きました。大公の為に17世紀に建てられたお城の前から英語のガイドツアーが始まりました。旧市街にはどの通りを覗き込んでも、黄色やピンク、青や緑で塗られた家々がずらりと並び、丁寧に保存されています。

城の近くにあるツイレ美術館では夜は窓に施された光のアートを楽しむことが出来、又毎年アートのコンペで町おこしをするなど現代も息づいている町でした。



Celle 市街で

北ドイツで一番高い標高1000mのブロッケン山に行ってきました。途中趣のある蒸気機関車に揺られて林の中を走ること約30分、山頂で遅い昼食を取りました。豆を柔らかく煮込んだ暖かいスープ、その中にドカーンと太いソーセージが入っています。

今は家族連れで賑わうこの場所も東西ドイツ時代、山頂には旧東ドイツ軍の施設があった為、一般の人は来ることが出来なかったそうです。歴史を実感した場所でした。



ブロッケン山頂で

9/1 15世紀にタイムスリップ

加藤 幸子

子供時代読んだグリム童話。ブレーメンの音楽隊もその一つです。ブレーメン、そこはホスト宅から電車で約2時間。田舎の緑溢れる地という想像とは真逆の混雑した駅から歩くこと10分、旧市街の市庁舎広場を囲む様に15世紀当時のまま保存された家並が続き、圧倒されました。

その片隅にあるロバの背に犬、猫、鶏の順に乗った2メートル程の銅像は、多勢の人が願い事をしながら触るようで、ロバの足元はぴかぴかに光っていました。歴史と満足度に満ちた1日でした。



ブレーメンの音楽隊

9/2 メルヘン街道ツアー

戸ヶ崎 満里・正次

この日は全員一緒に日帰りバスツアー。まずは笛吹き男（ねずみ捕り男）で有名なハーメルンへ。まさに童話に出てくるような派手な衣裳をまとった笛吹き男が、本当に笛を吹きながらガイドしてくれました。フリータイムには持参した昼食を取りつつ、野外劇場で「ハーメルンの笛吹き男」を観劇。セリフはドイツ語でしたがお話は知っているので楽しめました。

そのあとハーメシェンブルグ城に。まだ持ち主が暮らしているというお城で、往時がしのばれる豪華な調度などが見られました。

さらに「ほら吹き男爵」の住んでいた街にも寄り、メルヘン街道に行く旅でした。

夕食は古い農家を模したレストランで。かたまり肉が登場し、アルコールに火をかけて見せるパフォーマンスもありました。このお肉が中は柔らかく、皮はパリパリで大変美味しかったです。食後はダンスタイムになり、民族衣装の帽子とエプロンを着け、木靴を履いて輪になって踊りました。衣装はみな女性用だったと思うのですが、会長始め男性陣も一緒に楽しめてよかったです。



ハーメルン市街ツアー



ハーメシェンブルク城

中世都市として栄えたHildesheim。戦後復元された豪華な木組み装飾の建物に囲まれたマルクト広場で集合し、世界遺産の二つの教会を見学しました。

St.Michael's Churchでは13世紀に描かれたという天井画が大戦時にも大事に保管されていたため、その後再建された教会天井に当時のまま美しく飾られています。また宗教改革によって、この教会ではプロテスタントとカトリック双方の祭壇が祭られていたのも印象に残りました。

St.Mary's Cathedralには樹齢千年と言われるバラが生い茂っていて、大戦で廃墟となった大聖堂の元から再び芽吹き、花を咲かせ人々に希望を与えたそうです。

説明を下された牧師様ご夫妻もとても素敵でした。



牧師ご夫妻による大聖堂案内

ハノーファー渡航の最終日、夕方からレストランでドイツ料理をいただきながらのフェアウェルパーティーでした。歓談した後、余興では最初にプロの方の歌を聞き、次が私たちの出番。高垣会長のドイツ語による独唱をはさんで「野ばら」を歌い、「菩提樹」も全員で披露しました。女性は白いブラウスにバラの髪飾り、男性はドイツ国旗のハンカチをネクタイ代わりにつけて歌いました。東京での練習の成果が出たように思います。

次にハノーファーのメンバーが歌を披露して下さいました。私たちのつけた髪飾りを皆さんにつけて差し上げ、お互いに学生時代に戻ったような歌声が響くパーティーになりました。最後に日本の「花」も合唱し、パーティーの幕が閉じました。

2年前にハノーファー受け入れがあっただけの今回のリターン渡航。フレンドシップフォースならではの親睦で、心に残る渡航になりました。



ハノーファーメンバーによる斉唱



余興のヴォーカルとギターのデュオ

バスツアー（10月12日）

佐藤 薫

朝からどんよりとした曇り空でしたが雨も降らず、無事バスツアーによる「秋のイベント」を終えることが出来ました。

お台場のホテルでランチバイキング～旧古河庭園～メインの赤坂迎賓館～日比谷ミッドタウンと盛りだくさんのツアーでした。バスの高い席から都内観光も出来、車中では最後部二列をFF西東京で独占させてもらい、おしゃべりに花が咲きました。また旧古河庭園の秋のバラがとても美しく印象的でした。車中からは今話題の豊洲市場も見ることが出来たり、普段地下鉄だとわからない都内の位置関係も良くわかり、面白い発見でした。日比谷ミッドタウンでは6階で皇居を眺めながら食べたアイスクリームが美味しかったことはいい思い出です。

参加者の皆様からとても喜ばれ、イベント係一同ほっとしました。



お台場のホテルでランチ

盛り上がった親睦会（11月17日）

安倍 嘉人

会員27名とFF活動に興味をお持ちのゲスト3名も加わって、盛大に親睦会が行われました。

最初に高垣会長から最近のFF西東京は、国際交流に加えイベント開催、日本大会等参加など積極的で大変喜ばしいと勇気づけられる挨拶をいただき、ゲストからFF活動への関心についてスピーチがありました。

その勢いのまま軽食をつまみながらの賑やかな歓談に。この間、宇梶さんが作成したハノーファー受け入れでのゲストとの交歓とケベックへの渡航風景のナイスショットがスライド上映され、また話題沸騰。

この興奮はバザー・オークションで頂点に。6名が競合した人気出品もあり、童心に帰ったジャンケンに会場は温かい笑いに包まれました。

またやりましょうと声を交わしながら熱気の溢れる会場を後にしました。



白熱！ジャンケン大会！

日本大会代表者会議

高垣 孝

愛媛クラブ主催の日本大会代表者会議は10月14日午前9時半から大和屋本店の杜若の間で開かれました。Jeremi会長がハリケーン災害で出席できなかったため、ビデオメッセージと、大西理事が会長の講演予定稿の主旨を丁寧に説明して下さいました。

代表者会議では峯英司・大会実行委員長の司会でSOH（ストップオーバー・ホスピタリティ）とシェアホストの問題が話し合われました。その結果、SOHのFFIプログラムフィーはレギュラー交流と比べ安すぎるので、1日30ドルに値上げするよう、FFIに提案することで合意しました。

シェアホストは各クラブで対応は分かれていましたが、今後は1週間の受け入れが困難な高齢者が増える、また会員が仕事やボランティア等で忙しい、若い会員の加入促進のため、シェアホストが必要になって来ること、但し事前に先方クラブの了解を得ることが重要である、という認識で一致しました。

今回は自由に各クラブと活発な意見交換ができ、実りある代表者会議だったと思います。



代表者会議

全体会議・グループ討議

石井 健二

日本大会は旅行を楽しみつつ、FF活動の国内外の状況を知り、学び、またお知り合いを広げる機会として有用です。今年も218名（内西東京クラブは18名）の参加がありました。

石丸和子・愛媛クラブ会長の挨拶を皮切りに、大西弘・本部理事の講演、愛媛紹介ビデオ、選句（次報告参照）、FFIスタッフ兼FFJ事務局・金元さんの報告、全国クラブアンケート結果の発表（健康問題等、海外からも回答あり）、続いて様々な課題について、グループに分かれて話し合い、充実した会合でした。



グローバル受入交流（6月）紹介

全体会企画俳句、懇親会

宇梶 淑恵

FFの会員になって初めて日本大会に参加しました。俳人・正岡子規ゆかりの地、主催の愛媛クラブは参加メンバーに俳句の投稿を呼び掛けました。多数応募の中から当クラブからはファミリー賞に八塚住子さん、佳作に鈴木澄子さん、高石美保子さんと3名の方が入選しました（選者は句歴50年のベテランで話術も見事だった大坪順子会員さん）。

親睦会では、水軍太鼓、伊予漫才のアトラクション、美味しい料理、楽しい会話と言った盛り沢山の楽しい時間を過ごしました。



2018/10/14



日本大会のエクスカージョン、まず行った内子では江戸時代から明治時代に木蠟で栄えた商家の上芳我邸を見学し、往時の生活に思いを馳せました。

大正5年設立の内子座は今も劇場として多くの人々を楽しませています。

近くの松乃屋での昼食も美味で、フレッシュパークでは新鮮な野菜や果物をお土産に買いました。

大洲では、河内寅次郎が建てた臥龍山荘を見学。天井、壁、欄間、障子あらゆるところに工夫がされ、自然の美と調和された素晴らしいものでした。



内子座・正面

新会員紹介

田中満穂・正子



厚木在住の田中です。横浜の高校で出会い、以来半世紀以上の長い、しかし、楽しい友達生活を送っています。

二人の共通の趣味は読書、音楽、海外旅行、異文化との触れ合い。加えて正子の趣味はスキー・テニス（今は卒業）、俳句、ヴォランティアガイド、最近始めたピアノ、ウクレレ、満穂の趣味はバイク旅行、ピアノ、ギター演奏、コーラスなどです。

現役時代の仕事は主にドイツ人と長いお付き合いをしてきました。よろしくお願いたします。

千田幾子



昨年、夫の退職を機に東京都練馬区から勤めておりました医療機関を辞めて、娘家族の住む新百合ヶ丘に引越して来ました。

長い間、母親としての生活だけでしたが、異文化交流には以前から興味があり、数々のことを試みながら、細々と英会話を習っておりますがなかなか上達しない現状です。

趣味は編物、洋裁等が好きで日々常に何かを作成しております。

よろしくお願致します。

お知らせ

2019年度の予定

●2月3日（日）
西東京クラブ総会 ホテル町田ヴィラ

●5月7日（火）～13日（月）
オーストラリア・パースクラブ渡航
AC：菅沼益子 SAC：今村佐知子

●日程未定
関東ブロック会議（埼玉クラブ主催）

●7月23日（火）～27日（土）
世界大会（アメリカ・コロラド・ボル
ダー）

●10月27日（日）～28日（月）
日本大会（静岡クラブ主催）

●11月2日（土）～9日（土）
アメリカ・オーランドクラブ受入
HC：戸ヶ崎正次 SHC：石井健二

英会話研修渡航

FFI日本メンター 石井嗣代

2015年にスタートしました日本クラブ内の合同渡航のテーマ交流です。ニュージーランド、オーストラリア、アメリカなど英語が母国語の国々に渡航し、英語漬けの時間を持って頂きます。年々盛んになりつつあり、今年度は四つの渡航がありました。夏休みには親子での参加者も増えつつあり、受け入れる側も行く側も楽しい充実した時間を持っていると聞いています。

こうした国々には移民で渡ってくる人々に英語を教える先生がおいでで、張り切って音頭を取り、日々の単語シートのようなものを作ってゲームをしたり、午後はその単語を使いながら見物に行ったりします。

もう少し英語が話せると深い交流ができるんだけど！とひそかに思っておいでの方はふるってご参加ください。関心のある方は私までどうぞ。

編集後記

昨年から会報の担当になりました戸ヶ崎です。今号は8月のハノーファー渡航を懐かしく思い出しながらの編集作業でした。

私たち夫婦はホームステイ終了後、ライブツイヒ、ドレスデン、プラハと足を伸ばし、コンサートやオペラも楽しむ旅になりました。本場のオペラハウスで聞くオペラはすばらしかったです。旅行中はタクシーにボられたり、主人がチケットなどを紛失したり、とトラブルもありましたが無事帰国。帰ってみればいい思い出です。次の渡航は決めていませんが、また元気に参加できればと思っています。

寒さの厳しい季節になりましたが、また来年も楽しく活動できるよう、皆様もご自愛下さい。
(戸ヶ崎満里)

平成最後の…という言葉をよく耳にしたと思いましたが流行語大賞にノミネートさえされず、羅列された知らない言葉に歳を感じる、例によってデザイン担当の中川です。

今回の目玉はドイツ、ハノーファーへの渡航です！ハーメルンやブレーメンなどおとぎ話の世界を満喫したものと思います。また日本大会では俳句で入選した！や、エクスカッション楽しかった！など大会以外でも面白いことが満載だったようです。海外ばかりに目が行きがちですが、このように日本の良いところを再発見できるチャンスですので、私もできるだけ隙を見つけて参加したいと思えます。

次号は6月ですので、こちらが平成最後の会報になると思います。新元号がなんにせよ、平和な時代になってくれることを願っております。
(中川貴文)

発行日：平成30年12月 第28号
発行者：ザ・フレンドシップフォース・西東京

町田市つくし野4-29-17
Tel/Fax 042-796-6797

ホームページ
担当：西村千織、石井健二
<http://ffw-tokyo.org/wp>